



国際ロータリー第2790地区

千葉南ロータリークラブ週報

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH

創立	1964年3月2日	例会日	毎金曜日12時30分	例会場	オークラ千葉ホテル
会長	榊原 行夫	幹事	小林 透	雑誌会報委員長	瀬谷 研一
事務局	〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階			TEL	043-245-3204

2010年10月第1週号

第2285回



平成22年10月1日(金)点鐘12:30(曇り後晴れ)

- ◇国歌斉唱 『君が代』
- ◇ロータリーソング 『奉仕の理想』
- ◇四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

◇お客様紹介
なし

■ 会長挨拶及び報告 榊原 行夫会長

・24日のロータリー情報研究会が水野ガバナー補佐のお力添えにより、無事盛会裡に終了しました。厚く御礼申し上げます。

理事・役員会報告

1. 創立50周年記念準備委員会について

土屋武次会員(入会41年)、野城友三会員(入会38年)、植松省自会員(入会29年)、北原俊彦会員(入会22年)、金親博榮会員(入会19年)の5名と現会長、幹事が加わり準備委員会を構成することに決定。

2. 会員増強計画について

今まで入会されていた会員の会社で、現在入会されていない会社に再度招聘状をお出しし、お願いすることになりました。同時に会員1人ひとりにご協力を願ひ、会員増強を図って行きたいと思ひます。そして、親睦を図り、退会防止に努めて行きたいと思ひております。

3. 10/20 第3分区Bゴルフ大会について

4. 10/22 秋季日帰り親睦旅行及び職場訪問について

5. 11/26 例会場の変更について

例会場使用が不可のため、別の会場で行う。
現在、「倶楽部泉水」をお願いしているところ。

6. 12/17 忘年家族例会について

7. その他

■ 委員会報告

◇親睦委員会より(北原俊彦委員長)

- ・本日、初めての試みで「グルメの会」を開催します。27名の方がご参加です。有難うございます。
- ・10/4日(月)、地区大会記念・チャリティゴルフ大会が銚子のレインボーヒルズカントリークラブで開催され、7名が参加します。
- ・10/22(金)は、「日帰り親睦旅行及び職場訪問」です。全員登録です。昼食は、隊員さん達と一緒にカレーライスを喫食します。
- ・10/29(金)は、千葉緑RCとの合同夜例会(点鐘:18時)です。

◇次年度地区役員選出について(出井清会長エレクト)

- ・山田ガバナーエレクトより、地区委員の推薦依頼がありました。支障がないように選ばせて頂きますので、ご協力下さいませよう宜しくお願い致します。

■ 10月度 会員誕生日祝・結婚記念日祝



誕生日祝

5日 出井 清 会員 31日 川合 榎栄会員

結婚記念日祝

1日 中沢 治久会員 2日 梅村 星児会員
7日 塩谷 邦昭会員 10日 川合 榎栄会員
14日 出井 清会員 15日 本田 博会員
29日 花澤 衛会員

■ ニコニコボックス報告

☆水野 謙一会員(ガバナー補佐)

9/24、ロータリー情報研究会、会員皆様有難うございました。

☆水野 謙一会員

9/23～9/27日の4日間、本年度千葉国体に於いて天皇陛下行幸の折り、自社バスをご利用戴き名誉なことでした。お陰さまにて無事故で過ごしました。

☆植松 省自会員

杉本会員、本日の卓話、宜しくお願い申し上げます。

☆寺澤 一良会員

コンピューター屋が、コンピューターが壊れてオービックから技術者を呼んでいたのが、急遽足止めを食ってしまい、ロータリー情報研究会の突然の欠席、ご迷惑をお掛けしました。

☆本田 博会員

皆様、お久しぶりです！今日から毎週出席します！宜しくお願いします！

本日のニコニコボックス	11,000 円	累計	257,000 円
金の箱	520 円	累計	10,700 円

■ 出席報告 (会員数40名)

出席者数33	欠席者数 7	ピンター 0	修正出席率 82.05%
--------	--------	--------	--------------

千葉市内例会変更のご案内 [メーキャップにご利用下さい](#)

千葉RC	月	—	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	—	センシティタワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	10/19	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	10/20	京成ホテルミラマーレ
千葉北RC	水	10/20・27	ホテルポートプラサ「ちば
千葉中央RC	木	—	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	10/21	京成ホテルミラマーレ

本日の卓話

演題…『チャレンジマッチ ～子ども達に活力を～』
卓話者… 杉本 峰康会員



皆様こんにちは。

今日は新人卓話ということで私の自己紹介を兼ねましたお話をさせていただきますのでどうぞ宜しくお願いします。

2月の12日の例会より参加させていただきまして、約7ヶ月が経ちました。まだまだわからないことだらけではありますが「四つのテスト」だけは覚えました。

私は昭和42年1月に兵庫県神戸市生まれました。現在43歳です。大学まで関西に育ちまして、卒業後某製薬会社に就職しました。その最初の配属が千葉でした。それからずっと千葉におりますので、在住21年になりま

す。もうすっかり千葉県人になりました。

製薬会社で営業を5年ほどやっております、そのときに今の会社である外資系の生命保険会社のプルデンシャル生命から声が掛かりまして転職を致しました。

当社は非常に変わった会社でありまして、私みたいな営業職は新卒をいっさい採用しません。生命保険業界以外の様々な業界よりヘッドハンティングをされて入ってきております。基準は営業経験が5年以上の大卒で、それぞれの業界で活躍している人間を引っ張ってくるという非常に賢いシステムをとっております。

前任の澤野とは違い、私は独立自営の立場で仕事をしておりますので実は転勤等はありません。よって長くお世話になると思いますので宜しくお願い致します。

そして今現在、保険業界に移って丸15年を終えたところでもあります。

今回の卓話の題材は「チャレンジマッチ～子供たちに活力を～」ということにさせていただきましたが、このチャレンジマッチというのは私が個人的にやっているボランティアで、千葉県に新しく作った中学生のバスケットボールの大会名です。バスケといえば、青年男女とも千葉県は優勝しましたね！実は青年男子のメンバー2人と監督・コーチはお客様でして、ちょっと優勝の報告をさせていただきました。

話を戻しまして、何故そんなことをしているかその背景を少しお話させていただきます。サブタイトルが「～子供たちに活力を～」ということなのですが、最近の子供達に全く活力が無いということではないのですが、昔とは大分環境が違ってきているなということがあります。最近の中学生事情なんかを聞いておりますと、2008年度のデータですが不登校の児童は約105,000人いるそうです。全体の2.9%だそうです。今の計算方式に変わった1991年度は1%不足でしたので3倍近くに増加していることになります。34人に1人くらいの割合ですから、1クラスに1人は必ずいるということになりますので、やはり多いなと感じます。

原因は様々ですが、多いのが学校でのいじめや家庭環境などだそうです。私の時代にも当然いじめなんかはありましたが、今に比べると明るく顔の見えるいじめだったように思います。いじめに明るいというのも変なのですが、誰が誰をいじているというのが解りやすかったの、ある意味対処しやすかったのですが、今は携帯電話を持っている子が多いのでいわゆるプロフという自分のプロフィールを載せるサイトや学校裏サイトなどに実名で誹謗中傷を書き込んだりするいじめが横行しているそうです。もちろん誰が書いたか犯人は解りませんので、書くほうはどんどんエスカレートしていきます。被害者はたまりませんよね。この誹謗中傷も言葉で聞くよりも書いてあることを目するほうがずっと残りますので、受けるショックは大きいそうです。そうすると当然学校に来るのが嫌になって不登校になってしまいます。実は携帯電話というのはそういう温床になったり、また出会い系サイトなんかで事件に巻き込まれたりもする中学生も多いそうなので、もし皆様のお孫さんなんかで小学校・中学校で携帯電話を持ちたいという話になったら、是非今日の話思い

出して頂いてよく話し合いをしてみてください。

そんな環境にいると子供達はどうかと思いますか？誰も積極的ではなくなるのですね。目立つのを嫌がるようになります。何かを率先してやろうと先頭に立つと悪口を書かれたりするのです、おとなしくやり過ぎそうという冷めた考えの子供が増えてしまいます。

昔も悪いヤンチャな人間は一杯いましたが、そういう悪ガキみたいな生徒はある意味エネルギーが有り余っていてその方向性が悪いだけで、そこを例えば部活動とかいい方向に目を向けさせることが出来たらそのままのエネルギーで邁進しますので、さほどそういう生徒は苦勞しないみたいですね。逆にやる気の無い冷めた子供が一番大変だそうです。こういう子供達は何かやる気が出るものを見つけないと駄目ですから。

先週のロータリー情報研究会でのバズセッションの中で瀬谷さんが「子供達の成長は授業中ではなく、休み時間に作られる。ロータリーは大人の休み時間です。」という名言を残されましたが、本当にそう思います。もちろん勉強も大事ですが、それ以外の遊びやまた部活動なんかも非常に大切なものだと思います。

私は部活動の良いところは礼儀、忍耐力、根性を鍛えられるというのも勿論ですが、実は理不尽な経験をさせてもらえるところも私はあると思います。悪い先輩から色んな要求を全て「はい」だけで返事をしないとイケないという経験が皆様にもあると思います。その当時はものすごく嫌で「何でこんなことやられないとイケないんだ！」と思って、こんなことは自分達の代には辞めようということで、「自分たちはやらなかったよ」とみんな言いますが代々受け継がれていますので、同じことをしてきたということですね。実はそういう経験は社会に出たときに非常に役に立つと思います。当然社会に出ると様々な理不尽なことがたくさんありますが、最近の新人なんかを見ていますと、新人といっても我々の会社では30歳前後が多いのですが、そういう経験の無い人は辛いことがあると早くに心が折れてしまうことが多いように思います。しかし昔にそういう経験をしていると、あの時の理不尽さに比べたらこれくらいのことと思えると、すぐに心が折れないと思うのですね。そういう意味である程度そういう経験もしたほうがいいのかと本当に思います。

どうして教育者でもなんでもない人間がこんな話をしているかといいますと、私も多種多様な業界のお客様がいらっしゃいますが、たまたま教育者の顧客も多くおまして、そういう事情をよく聞いておりました。これは学校だけの問題ではなくて、これからの日本全体の社会問題だと思います。

もちろん全てを変えることは出来ませんが、何か少しでも身近なところで変えることは出来ないかなと私なりに思っておりましたところ、私の同僚で大学までバスケットボールをやっていた人間が、宮崎でおもしろいバスケットボールの大会をやっていると聞きました。本来バスケットボールは登録選手12人で試合は5人で戦う競技で、交代してもせいぜい8人くらいまでがほとんどで、試合に出ることが出来ない子のほうが沢山いるのが普通です。しかし、その大会は所属部員全員を試合に出すのがルー

ルという大会です。どういうことかといいますと1試合に部員全員を出すので、20人いると1試合に20人が交代で試合に出るということです。1年生だろうが素人だろうが関係なく試合に出ます。

何故そういうことをやっているのか聞きましたところ、「近江商人の三方よし」の理念じゃないですが、子供・父兄・顧問全員から喜ばれるからということでした。まず、公式戦はレギュラーと交代選手数人しか試合に出ることが出来ません。練習試合でも、あまり相手に失礼になるようなことは出来ませんし、ましてや全員出すということは不可能ですので、やはり一定の選手しか試合には出ることが出来ないということになります。そうすると全然試合に出ることの出来ない子は面白くありませんし、チャンスももらえない機会が少ないので腐っていく子もいます。当然そういう子の父兄も試合を見に来ないし、部活動に対して協力的になるとはいえませんが、そうすると顧問もやり辛くなります。もちろん顧問の先生も全員試合に出してあげたいのはやまやまですが、なかなかそうもいきません。それを一気に解決してくれるのが、この大会だというふうに言っておりました。「それを千葉でもやってみれば？すごく喜ばれるよ。」と教えてくれました。しかし問題がありました。実は私はバスケットボールというスポーツをやったことがありません。もっというとルールもよく知りませんでした。その同僚はバスケットを知り尽くしていますが、わたしは全くの素人ですので出来るかどうか不安でした。しかし、バスケットボールの指導者はたくさんお客様でいらっしゃいます。

そこで私のお客様のバスケットの顧問の先生に「こんな大会あったらどう思いますか？」と聞いて回ったら、ほとんどの方が「すごくいいじゃないですか！是非作ってください。もちろんお手伝いしますよ。」と言ってくれましたので、これはやるしかないと思いました。2年前の2008年の6月に私とあと2人の教員で運営委員会を立ち上げました。私の立場は運営委員会代表ということになりました。

そして、大会名を「チャレンジマッチ」と命名しました。これは部員全員が試合に出てチャレンジするというところから名づけました。また「カップ」ではなく「マッチ」にしたのは、優勝を決めるような大会にしてしまうとチームによっては全員出さずに勝ちに行くことも考えられるのと、すぐに負けたチームは試合数が少なくなってしまう。そんな大会なら他にありますのでそちらに任せるとして、ただひたすら色んなチームと練習マッチをこなしていく大会にしました。その方が試合数も多いし試合に出られる回数も多くなりますので。時期は夏休みの終わり頃で2日間、3年生が引退して新チームになって夏の練習の成果を試す時期です。こんな大会があるとわかるとレギュラー以外の子供達も練習をがんばろうという気になります。また自分が試合に出ることによって、何故彼がレギュラーで自分が控えなのか、またチームの代表で試合をすることがいかに責任重大かを自覚しますので、変な妬みとか無くなり部活に対して前向きに取り組むことが出来るようになります。そうすると学校生活全般に前向きになっていくみたいです。

当初は立ち上げたばかりなので、参加校は集まるのだろうかと不安でした。しかし他に6人先生方に運営委員会に入って頂いて計9人で運営しておりますが、全員千葉県協会の役員をしている人なので県内全域に顔が広いこともあって、なんと男女合わせて高校6チーム中学校74チームの合計80チームも集まりました！おまけに月間バスケットボールという雑誌にもこの大会が紹介されました。宮崎の同僚は4年目でやっと48チームでしたので、これは驚きました。それだけみんなこういう大会に飢えていたということですね。

そして、2年目は104チーム、今年はなんと県外も含めて177チームで3,000人以上が参加しました。会場数も14会場で行なわれました。どのくらいの規模かといいますと、千葉県の高校の全てのバスケットボール部が男女合わせて168チームなので、それよりも多いチーム数だということです。それでも日程的に参加出来なかったチームも多いので、夏にもれたチームを中心に春休みと冬休みに「チャレンジマッチ・スプリングバージョン」「ウインターバージョン」というのも去年から開催しております。こんなに盛況なのは、運営委員会の先生方や毎年会場を提供して下さる先生はもちろんですが、参加者も人との繋がりが集まったメンバーなので「千葉県に新しく出来た自分たちの手作りの大会」という意識でいて下さっているからだと思います。

バスケ以外の教員からも、「クラスの子が今度試合にたくさん出られるんだ！と喜んでいましたよ。」とか、「今度試合に出るよ！」と親に言うのでしょうか、「他の大会は見に来ないのにチャレンジマッチだけは見に来る親が増えましたよ。」とか、「うちの生徒が一番好きな大会はチャレンジマッチだと言っています。」と言ってくれるところもあります。素晴らしいながら顧問の先生方もすごく喜んでくれています。そう言って頂いて私も大変ありがたく思いますし本当に思い切ってやってみて良かったとつくづく思います。といっても同僚の真似をただけなのですが。

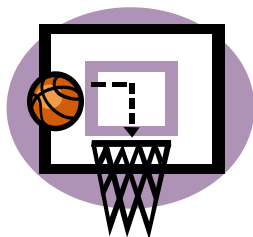
ほんの些少で限定的ですが、少しは子供たちに活力を与えられていれば幸いです。

街で「CHALLENGE MATCH」のTシャツを着ている中学生をみたら、あの大会に参加している子供達だと思って下さい。皆様の母校の後輩達もいるかも知れませんね。

「4つのテスト」これに照らし合わせて、これからもがんばって行きたいと思います。

拙い話でしたが、私の卓話を終わります。

ご清聴ありがとうございました。(文:杉本 峰康会員)



〈バスケットボールって？〉

2チームで、得点を取り合うゲーム。バスケットボールという競技は、5人ずつのプレーヤーからなる2チームで、ボールを使って得点を取り合う球技です。バスケットをする場所をコートと言い、コートには2つのバスケットがあります。バスケットボール(シュート)を入れることにより、得点となります。自チームのバスケットには相手チームにボールを入れさせないように相手チームのバスケットにはボールを入れるようにプレーを行い、得点が失点を上回った方が勝者になります。

〈スピードとハイスコアなゲーム展開が魅力〉

バスケットボールはコートが余り大きくないこともあり、攻守の入れ替わりなど、非常にスピードが早い球技です。

しかし、プレーヤー同士の接触プレーも多くあるので、スピード(敏捷性)をつけると同時に、体(フィジカル)を頑強に鍛えることも必要とされる球技です。また、得点が他の球技に比べて多く入るため、観る者を楽しませる派手な球技とも言えます。得点を取り合う球技で、得点も多く入りやすい。そうなると、優れた得点者(ポイントゲッター)がいると有利だと思われがちなのですが、実際には1人の突出した選手がいるチームより、選手のバランスが良いチームの方が勝利の為には良いとされています。

〈バスケットボールの歴史〉

バスケットボールは1891年にアメリカのJ・ネイスミス博士によって考案されました。当初は冬場に楽しめるスポーツがなかったため、冬場にも楽しめる室内競技としてバスケットボールは生まれたのです。その際に決められて基本規則は、

- ・誰でも簡単に行えるが、完成の域にいたるまでには、相当の練習、努力や工夫を必要とする。
- ・体の接触を基本的に禁じる。
- ・器具などは使わず、素手でボールを扱って行う。ボールは手で隠しきれない大きさとする。
- ・スピード感あふれる競技にする。

などです。これら以外のもも含め、13条からなる競技規則が作られました。そしてバスケットボールはアメリカ全土に広まっていき、日本には1908年に伝わってきました。生誕して100年以上経つこのスポーツは、現在では老若男女を問わず、多くの人々に親しまれる、人気スポーツになりました。しかし、人気のあるスポーツとなった現在でも、創設時の基本理念は活かしつつ、ある程度の体の接触は認めるようになるなど、未だに競技ルールは進化・発展し続けています。(インターネットより抜粋)



第2286回例会

日時⇒ 平成22年10月8日(金) 点鐘12:30

演題⇒ 『飛行機の飛ぶ仕組みと発達
(空気力学・流体力学の不思議)』

卓話者⇒ 内木 洋生様

第2287回例会

日時⇒ 平成22年10月15日(金) 点鐘12:30

演題⇒ 『音楽の力で白血病の研究を支援』

卓話者⇒ ヴィタリテ・ミュージック

音楽プロデューサー 大橋 宏司様